



# 福ちゃんを市長に 決起集会

## 必ず勝つ と福山さん決意

### 市長選挙勝利で要求を前進させよう

「補聴器」助成を  
求める会と福山さ  
んとの懇談会

11月8日、京都市長選挙に立候補の表明をされている福山さんを囲んで「補聴器補助を求める会」がつどいを開催し、33名が参加されました。

共同代表の佐野春枝さんが開会挨拶、事務局長の粟倉恵子さんが「これまでの活動の経過と課題」を報告した後、参加者から次々、補聴器のことで体験や思い、要望が出されました。

「補聴器は高い、まず一步の補助」「白内障の眼内レンズは、保険適用だ」「購入しても使えないという人、多い」「聴言センターの診療は無料で助かるが一か月待ち、窓口広げてほしい」「役所の中に耳の相談窓口が必要だ」「市民検診に聴力検査を」などなど、切実な声でした。

福山さんは、そうした声に耳を傾け、「加齢は避けることは出来ない。声が聞き取りにくくなれば、どなたも補聴器で、健康で文化的な社会生

活ができる、権利としての補聴器にしないといけない」と自身の考えを示されました。

福山さんの重点政策「すぐやるパッケージ」には、「補聴器購入の助成拡充」としつかりと補聴器補助の政策が書き込まれています。



すでに37都道府県、218自治体で補聴器補助の事業が行われています。

京都市でも補聴器の公的補助の声にこたえてくれる市長、国にも言う京都市長実現にむけて、私たちが頑張ります。

(補聴器の公的補助を求める会 ニュースより転載)

### 京都市の交通政策の改善策を語る会 開催

11月6日(月)、「京都市の交通政策の改善策を語る会」

を開催、ゲストに京都市長選挙に立候補表明されている弁護士福山和人氏をお招きし、私たちの要望や意見を聞いていただきました。「敬老乗車証守ろう連絡会」、「市民の足を守る連絡会」などからもご参加いただき、たくさんの方の要望や意見が出されました。

冒頭、会の山本代表(年金者組合府本部委員長)が開会あいさつ、「世界的に弱い者いじめが横行し、パレスチナでも、京都市政でも大変な状況だ。今度の市長選挙はおもしろい選挙、楽しくたかおう」と呼びかけられた。引き続き福山和人氏にご挨拶いただき、京都市は「金がない、財政が大変」と、市民はもちろん市の職員にも

の職員にも繰り返して、刷り込んで、「ガマンせなあかんなあ」と思わせている。「公共交通の実態、一般論でなくリアルな状況を聞か



せて欲しい」と話された。

その後、参加者からたくさんの実態や要望、意見が出された。「交通局に不便地域の実態・改善を要望しても、全くやる気がない」「敬老乗車証の改善で懇談したが、市はこれ以上の税金投入は考えていない、ますます使いにくい制度になる」「地域の半分以上がバス停から500m以上の不便地域、行政の冷たい対応を何とかして欲しい」「コロナ5類になり、観光公害が再燃、バスは遅れる、市民が乗れないなど大問題だ」「市内均一料金のエリアを拡大し、近鉄も含めて欲しい」「門川市長は市バス乗り換え無料を公約にしていた。実現して欲しい」

最後に、12月5日(火)に交通問題関係の決起集会を開催することが報告された。

(市バス値上げストップ・公共交通を守る連絡会「ニュース」より転載)



食事会の準備風景

女性部が中心に活動  
本年11月1日現在組合員数は209人です。うち女性組合員数は134人です。三分の二近くになり活動は女性が

## 支部紹介②中京支部

### 高齢者比1%の組織へ地域の諸運動にも深くかかわってます

### 班・分会づくりが課題

中心ですが、しかし、役員では三分の一です。今後の課題です。

行事は、毎月ウオーキング、年間賀寿のつどい、新春のつどい、二か月ごとに食事会(女性部主催)を行っています。参加者や新規加入者も少なく、検討中です。

#### 編物・ちぎりの絵サークル

サークルは、編み物、ちぎりの絵があります。今後組合員の希望に合った催しをと、当面「映画を見る会」をはじめ、サークルづくりに奮闘しています。

各種募金や署名は、すべて目標達成に向けて取り組んでいます。全組合員に訴え切ることが困難で苦闘しています。

仲間増やしでは、「地域の高齢者比1%260人」を目指しています。毎年定期大会で掲げられますが、退会者や亡くなる方もあり、それに追いつく加入者を迎えることも難しく、毎月対象者を出し合い加入の訴えを行っています。対象者もなかなか出なくて、



賀寿のつどい

成果には結びきません。そして、中京の最大弱点である班・分会づくりも、課題となっています。

#### 中京地区労とも連携し

中京地域での活動は、中京地区労に加入して、各労働組合と共同して運動をすすめています。副議長・常任幹事の二人の役員を送り、地域の労働運動で一翼を担っています。今回の市長選挙では地域の民主市政の会(つなぐ京都@中京)に参加して代表委員・事務局員に加わり活動しています。他に革新懇・消費税反対連絡会などに参加しています。

中京支部事務局長 大橋博行

## ワンショット

### シャモジのような嘴で餌を獲る凄腕 クロツラヘラサギ

ペリカン目トキ科ヘラサギ属



クロツラヘラサギ。まず一羽が飛び出し、続いて残りが一斉に飛び立った。何回か上空を旋回、そのあとめざす小さな池に降り立った。

小さな池に降り立ったクロツラの群れは、残り少なくなった小魚を長い嘴(くちばし)を水面に入れ、歩き回って魚を追い込み捕獲していた。なんと器用な技を持っているのかと感心してしまった。シャモジのような長い嘴を半開きにして水

面に差し込み魚を探すクロツラヘラサギ。飛び立った後、食事のためらしく、小さな池に舞い降り、その瞬間から餌の魚をくちばしの先で探し当てていた。器用なものでくちばしの感触で魚を咥えているのだろうか。

くちばしの端に神経を集中しているのか、見事な技だった。初めてクロツラヘラサギのエサ取りの技を見せてもらった。(浜)

京都年金者文芸



俳句

踏み切りの無事祈るごと野菊かな  
 芒原見え隠れする山頭火  
 鎮まりぬ色なき風の奥琵琶湖  
 以上警年金者しんぶん

新米の塩味ききしにぎり飯  
 秋寒し忘るる事の多かりき  
 住み古るし実家の庭の実南天  
 以上宇治・久御山ねんきん

音のして木の葉舞い散る里の宮  
 丹波路や錦街道紅葉晴  
 美山路や心の散歩冬紅葉  
 以上北桑田支部

立冬や探す日記の農作業  
 行き交ふは皆旅の人紅葉狩り  
 若沖の絵より鶏鳴菊日和  
 以上舞鶴年金者しんぶん

走り去る黒い車に黄葉渦  
 稲扱きや藁にまみれて粒ひらふ  
 クマ餌をさがし求めて秋深し  
 以上これからだ(福知山)

エジプトよ門を開けよ人の道  
 じっくりと老いを愉しむ秋日和  
 平穏を茅の輪くぐりて祈りをり  
 以上ねんきん城陽

枯葉庭金に輝く石路の花  
 猛暑経た新米の顔つくづく  
 不知火や廃寺に潜む旅の僧  
 以上ひがしやま(東山)

冬麗隣は孫ができたらし  
 広田浩三(下京)

佐藤 総子  
 木村喜代美  
 中川 美穂  
 今井 節子  
 中村美沙子  
 花野 玲子  
 荒田 義枝  
 野尻 きみ  
 坂本二三恵  
 康弘  
 紀代子  
 陽子  
 宮下 広美  
 吉田 武彦  
 田村 文恵  
 加藤 明美  
 河端ひろ子  
 多田 幸子  
 藤本 貞女  
 勝野 修子  
 中西 實



短歌

水俣の深き辛苦は長かりし  
 報告のマイク病にふるふ  
 去年の田はひまわり迷路に子らはしやぎ  
 今しらすぎ一羽餌をはむ  
 しつように残暑の長さ九月尽  
 秋の味覚の店にならびぬ  
 以上宇治・久御山ねんきん

昨日まで日陰さがして歩いてた  
 今朝は日なたをさがして歩く  
 降雨なき地上は白き乾ききり  
 暮れ方庭撒く水におう  
 以上舞鶴年金者しんぶん

ひとつ火をともして人生楽しかり  
 われ思ふゆゑわれあり  
 どの髪もポニーテールの女生徒ら  
 部活に励むテニスコート  
 腕さすり腕の細さに老いを知る  
 腹の脂肪は減らないけれど  
 以上船井丹雲の会

新幹線車中販売終了で  
 眠気をさまされる事もなく  
 八十路より絵手紙の友に助けられ  
 七年を過ぐ老いの楽しみ  
 戦争で逃げ惑う子らの黒き瞳  
 その底には悲しみたたえ

奥田 君子  
 脇坂由美子  
 宮前 裕子  
 野垣 幸子  
 大由里千代野  
 八木 幸雄  
 北村 豊子  
 俣野 右京  
 田中康晴(西京)  
 小川民子(城陽)  
 所川和美綴喜

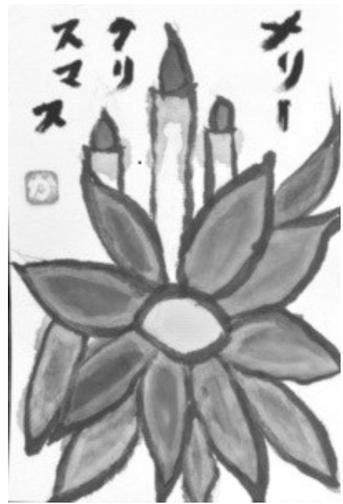


川柳・自由句

助手席で睡魔に負けて船を漕ぐ  
 ユーミンの歌と違った中央フリーウェイ 美夜生  
 以上年輪西京

不適材よくも見つけた岸田さん  
 放言を放置しておく任命者  
 千龍子(舞鶴)  
 出雲源人綴喜

趣味の紹介



城陽支部 中村和子さん



東山支部 今村フサコさん





# 深泥池に愛着 自然界の力に共感 今や国の天然記念物

## 幼少期は丹後で

田末利治さんは丹後半島の海のすぐそば、網野町の集落で生まれ育ちました。「本当に何も無い田舎」で、子どもころは毎日広々とした海を眺め、漁師のお父さんの仕事を手伝ったり、泳いだり、磯

で遊んだりされていきました。お父さんが毎朝、海へ出て魚を採り、お母さんがその魚を売りに行って生活されていたそうです。海岸から少し離れた広い盆地は丹後ちりめんの大生産地だったので住民も多く、とくに若い女性が大勢働いておられました。

小学校は1学年10人足らずの小規模校でした。級友たちといたずらもたくさんされたようで、「今だから言えるけど」お寺や神社の木に登ったり農地の柿や栗を失敬したこともあったとのこと。当時は土葬でしたから、古そうなお墓を探して、そこでは肝試しのような遊びもしました。子ども時代のことを本当に楽しそうに話されていました。

## 中学の理科教師に

そんな故郷を出られたのは、京都市内にある大学に進学するためです。小学校を卒業すると男の子は家業を継ぎ、女の子はちりめん工場に働きに行くことが普通でした。中学校への進学さえ珍しく、おまけに3人兄弟の長男である田

# 輝いて元気に

(たすえ としはる)  
田末利治さん

(左京支部 94歳)



末さんが大学へ進めたのは、学校の先生がご両親に「これからは教育が大事。都会へ出て勉強させてあげて」と说得してくださったからだそうです。よっぽど成績がよかったのでしょね。そして知り合いのご縁があった京都で大学に通い、故郷には帰らず中

学の理科の先生になりました。



深泥池へのアクセス

## 教師仲間の案内 数年かけて調査

田末さんが京都市北区にある深泥池を知ったのは教師になったところで、先生仲間が連れて行ってくれました。ジュンサイが自生していて地元の方たちに利用され、親しまれている池です。しかし流れ込む川も出る川もなく、大昔からの動植物が生き続けていて、と知って「都会のど真ん中にこんな池の自然が残っているのかとびっくりした」。それから先生仲間と足しげく通ったり、京都大学理学部の研究者たちの話を聞いたりしながら、数年かけて水質

や浮島を調査、生き物の分類などもされ、こんなに小さいけれど日本の宝だと思われるようになりました。

## 天然記念物深泥池 の歴史研究を

科学的な調査だけでなく歴史も学び、深泥池を守る会や水生生物研究会に入って活動されるようになります。研究の成果は市民向けに発信されたようですが、記録が一つも残っていないというのが残念です(ネット上では一部検索できます)。

深泥池は1977(昭和52)年に国の天然記念物に指定され、1988(昭和63)年には対象が生物群集全体に拡大されました。

田末さんは「今は歩くことも難しくなってる」となかなか池には行けないが、「年金者組合左京支部ではばくが最高齢と思うが、もう少し頑張る」と力強く話されていました。

(取材 矢吹美根子)

西田美津子)

## 写真

二月27日コロナ後再開年目の錦秋のつどいを行いました。支部長・書記長不在の中、どうなることかと思いましたが、執行委員の皆様の協力で何とか切り抜けました。昨年続き、食事は無し、お茶とお菓子だけ。20個用意したお菓子も残り2個、昨年よりも多い58名の参加でした。米寿の方の名、傘寿の方の名のうち計20名の方が参加して下さい、皆でお祝いしました。後半は、手品、相撲甚句、オカリナ演奏、を皆で楽しみ、歌う会の演奏でみんなで唄った後、その盛り上がりのまま、お楽しみのピンゴゲームに入りました。「リーチ！」が中々出ず、いきなりの「ピンゴ!」。景品のほか、農園クラブの野菜が副賞です。みんな笑顔で、大きな大根を持って帰りました。

